

平成 30 年 1 月 26 日

各 位

会社名 荒川化学工業株式会社
本社所在地 大阪府中央区平野町 1 丁目 3 番 7 号
代表者名 取締役社長 宇根 高司
(コード番号 4968 東証第一部)
問合せ先 常務取締役経営企画室長 延廣 徹
T E L (06) 6209-8500 (代表)

平成30年3月期業績予想の修正、
富士工場における爆発・火災事故に係る業績への影響額見通しに関するお知らせ

平成29年12月1日、当社富士工場にて発生しました爆発・火災事故につきまして、お亡くなりになった方のご冥福をお祈り申し上げ、ご遺族に対し心よりお悔やみ申し上げますとともに、負傷された方、近隣住民の皆様ならびに関係ご当局の皆様、お客様、株主の皆様をはじめとする多くの方々にご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

当該事故の影響および最近の業績の動向等を踏まえ、平成29年5月8日に公表した平成30年3月期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）の通期業績予想の修正および事故の影響額の見通しを下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成30年3月期 通期連結業績予想数値

(1) (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	78,000	4,750	4,900	3,200	155.04
今回修正予想 (B)	80,000	4,900	5,200	3,100	150.20
増減額 (B - A)	2,000	150	300	△100	
増減率 (%)	2.6	3.2	6.1	△3.1	
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	77,380	5,095	5,314	3,416	166.18

(2) 修正の理由

粘着剤用樹脂や機能性材料などの需要が好調に推移したことや為替の影響などにより、売上高、営業利益、経常利益ともに前回発表予想を上回って推移しております。しかしながら、平成29年12月1日に富士工場にて発生しました爆発・火災事故につきましては、関係ご当局および社内の調査委員会により、事故原因等を調査中であり、また、一部の生産設備は操業を停止している状況下、補償、撤去等に係る費用ならびに販売を含めた事業への影響を合理的に見積もることは困難な状況であります。当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき、当該事故の業績への影響を見通しましたので、最近の業績動向を踏まえ、業績予想を修正いたします。

2. 富士工場における爆発・火災事故に係る業績への影響額見通し

(1) 事故の概要

平成29年12月1日に富士工場の印刷インキ用樹脂製造棟において発生しました爆発・火災事故を受け、関係ご当局により原因等を調査中ですが、当社でも調査委員会による事故原因の究明と対策を全力で進めております。

(2) 業績に与える影響額の見通し

操業を停止している施設の稼働時期、補償、撤去および復旧などに係る費用、販売を含めた事業への影響額および保険収入を合理的に見積もることは困難な状況ではありますが、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき、当該事故が平成30年3月期の当社の連結業績に与える影響額の見通し（税引前）を、合計6億50百万円程度と予想しております。

なお、影響額の見通しは、本資料発表日において入手可能な情報および将来の不確実な要因に係る仮定を前提としているため、今後変動する可能性があります。

(平成30年3月期通期連結業績への影響額の見通しの内訳)

	金額(百万円)	備 考
営業利益	△ 250	生産・販売量の減少および代替品の調達による損失
特別損益	△ 400	補償、撤去等に係る費用、事故に起因する生産設備停止に伴う固定費および保険収入等
合計	△ 650	

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上